

「このニュース 福島へ」

原点は被災の街 周囲説得

高浜原発仮処分 申立人事務局長

原発の新規制基準は緩やかすぎる……。福井地裁の樋口英明裁判長は14日、政府が「世界最高水準」と誇る規制基準を指摘。昨年5月の関西電力大飯原発3、4号機の運転差し止め判決に続いて「原発に内在する本質的な危険」を指摘し、関電高浜原発3、4号機の運転を禁じる仮処分を決定した。申し立てた住民側は「輝かしい日」と喜びを爆発させ、立地市町の首長らは言葉少なだった。



福井地裁へ向かう申立人たちに、集まった支援者から「頑張れ」という声が上がった＝福井市

申立人事務局長の松田正さん(66)＝坂井市＝は、何度も万歳のポーズをしながら弁護士らと福井地裁の玄関から駆けだしてきた。市民の前で「このすばらしい決定も、あの恐ろしい福島原発の被害があったから。福島の人々、このニュースが伝わりますでしょうか」と力を込めた。



仮処分決定を受けて、福井地裁前で「共に喜び合いましょ」とあいさつする松田正さん＝福井市

4/15 朝日

3、4号機の運転差し止めを命じる判決を出した直後だった。しかし当初、申立人が思うように集まらなかった。仮処分は訴訟と違わずぐぐぐに原発を止められる一方で、実際に原発の運転を差し止めた前例がなく、ハードルは高かった。大飯差し止め訴訟では200人ほどが原告に名を連ねたが、「控訴審に集中したい」と申し立てに加わらない人も多かった。それでも松田さんは「訴訟では時間がかかるとその間に再稼働してしまう」と脱き、応じてくれた県内外の住民8人とともに

に申し立てに踏み切った。東京電力福島第一原発事故までは、原発の反対運動には頭を出す程度だった。事故の6日後、支援物資を軽トラに積んで、福島第一原発から20、30分の福島県南相馬市に入った。

人影がほとんどない街で、夕方に明かりがついた民家を訪ねると「避難所に行きつらい」と話す障害者とその家族がいた。「避難したけれどお金もない。どうしていいかわからない」と見ず知らずの松田さんに泣きつく高齢者もいた。「弱い者が犠牲になる。絶対に譲ってはいけない人間の尊厳を原発は奪う」と思いを強めた。

松田さんは「脱原発の民意は選挙では反映されなない」と思っている。以前ある党の選挙を手伝った時、地縁や付き合い、組織力が勝敗を決めるのを目の当たりにした。「原発を止めたい民意は政治には届かない。司法こそ、原発を止める最後のとりです」と思いが通じた。(山田理恵)